

**大学・高専機能強化支援事業**  
**(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)【支援2大学】**  
**事業概要**

令和5年7月時点

選定年度	令和5年度	学校コード	F101110100038
大学名	室蘭工業大学	設置区分	国立
学校種	大学	都道府県	北海道
申請形態	研究科等の設置・増員（一般枠）		

**1. 事業概要**

理工学部時からの理工学専門知識と高度情報学の専門性を併せ持ち、様々な分野で課題の発見、解決方法の提案ができる高度情報専門人材の育成及び輩出を実現するため、令和6年度に、大学院工学研究科情報電子工学系専攻の入学定員を15名増員するとともに、同専攻内に新たに共創情報学コースを開設する。

共創情報学コースでは、データサイエンス、AI、コンピュータ科学などの「情報基幹科目」、他機関とも連携した「PBL・社会連携科目」、理工学専門科目において具体的に情報を用いて学ぶ「情報×専門科目」、及び「専攻共通科目」の体系的なカリキュラムを編成する。ここでは、**情報学の専門知識の修得に加え、他分野の科目を履修することで応用範囲を広げ、さらに企業や他大学と連携したPBLにより、実社会での多様な課題に対する解決能力を養うことで、ビッグデータやAIを実社会の様々な分野で応用できるデータ駆動型課題解決人材の育成を目指す。**

2.基本情報

大学全体の収容定員数等の変化（予定）

		博士課程	修士課程	大学院計	学士課程
大学全体の情報系組織の収容定員	増員前		134	134	
	増員後		164	164	
	増分	0	30	30	0
大学の全組織の収容定員	増員前		448	448	
	増員後		478	478	
	増分		29.9%	29.9%	
情報系組織の収容定員の占める割合	増員前		34.3%	34.3%	
	増員後		4.4%	4.4%	
	増分				

※正規課程の人数

※令和5年5月1日時点

改組・増員前の組織情報

課程	組織名	入学定員	収容定員	改組時期・内容
博士	情報系			
	計	0	0	
	情報系以外			
	計	0	0	
修士	工学研究科情報電子工学系専攻	67	134	R6増員
	計	67	134	
	情報系以外			
	計	0	0	
学士	情報系			
	計	0	0	
	情報系以外			
	計	0	0	

※情報系組織の改組・増員に関する組織のみを記入。コース等で実施の場合はコース等单位で記入。

※学士の入学定員には編入入学定員を含む。

改組・増員後の組織情報（予定）

課程	組織名	入学定員	収容定員	改組時期・内容	所在地
博士	情報系				
	計	0	0		
	改組前との差	0	0		
	情報系以外				
	計	0	0		
	改組前との差	0	0		
修士	工学研究科情報電子工学系専攻	82	164	R6増員	
	計	82	164		
	改組前との差	15	30		
	情報系以外				
	計	0	0		
	改組前との差	0	0		
学士	情報系				
	計	0	0		
	改組前との差	0	0		
	情報系以外				
	計	0	0		
	改組前との差	0	0		

改組・増員後の情報系組織の学位分野（予定）

課程	組織名	学位分野（主なもの6つまで）					
博士							
修士	工学研究科情報電子工学系専攻	工学関係					
学士							

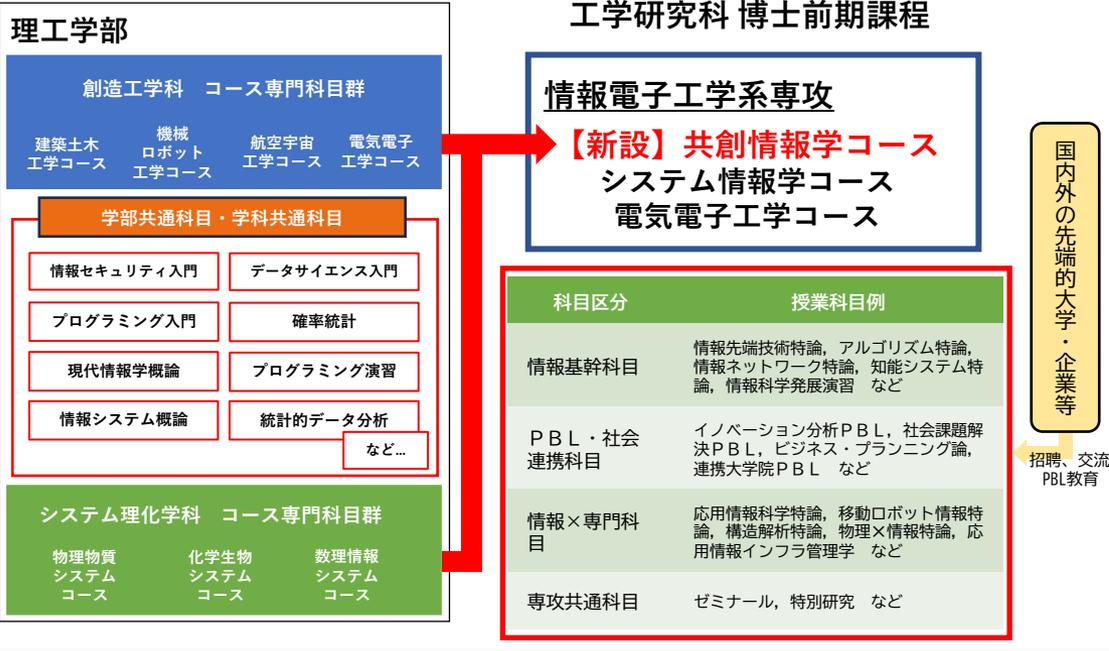
## <基本情報>

改組内容：研究科等の設置・増員  
 情報系組織名：<修士>工学研究科情報電子工学系専攻  
 情報系組織の入学定員：<修士>【R6増員】改組前67名 → 改組後82名  
 所在地：北海道室蘭市

「情報」×「専門」＝  
 未来への価値づくり

## 共創情報学コースの概要

理工学部時からの理工学専門知識と高度情報学の専門性を併せ持つ高度情報専門人材の育成及び輩出を実現するため、令和6年度に、大学院工学研究科情報電子工学系専攻の入学定員を15名増員するとともに、同専攻内に新たに共創情報学コースを開設。



✓ 社会のニーズ等を踏まえた教育カリキュラム  
 産業界が参画する科目、実務家教員が実施する科目や社会・産業界と協働したPBL科目を配置しており、社会のニーズを十分に踏まえたものになっている。

✓ デジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備  
 2019年度の工学部から理工学部への改組、令和3年度から博士後期課程で実施している「情報×専門」の異分野融合型人材育成である次世代研究者挑戦的研究プログラムの実績を活かし、理工学専門分野をバックボーンに持つ学部学生を対象として、情報・デジタル分野の新しい技術・能力を持った人材を育成する教育体制を整備・定着させる。

✓ 実務経験のある教員等による授業科目を配置  
 新規雇用する実務家教員等に加えて、学内教員を配置換えることで、入学定員15名に対して質の高い教育を実施するための十分な体制とするほか、共創情報学コースにおける授業科目のうち26単位（予定）については実務経験のある教員による授業科目を配置し、多様な視点からの教育を実施する。

✓ 学生確保の見通し  
 全ての理工学分野から志願者を集めるため、全専攻に対する志願倍率を参考にすると、過去5年で平均1.37倍と定員を76名上回る。すでに実施した推薦入試では、進学希望者が入学定員増15名を大きく上回っている。さらに、高専専攻科や他大学への進学説明会を実施することで、十分に学生確保を見通すことのできる計画となっている。

✓ 具体的な人材ニーズ  
 北海道は、全国に比して人口減少、少子高齢化が約10年早く進んでおり、広大な土地に人口と都市機能が分散しているなど様々な社会課題を抱える言わば課題先進地域であり、様々な課題解決のためにデジタル技術を活用できる人材の育成・確保が地域共通の喫緊のニーズとなっている。

## 目指す人材育成像

ビッグデータやAIを実社会の様々な分野で応用し、課題発見・解決ができる新時代の高度情報専門人材＝データ駆動型課題解決人材の育成・輩出を目指す

